

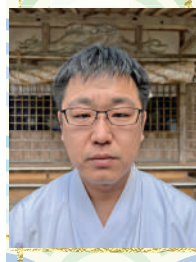
鳥取神青通信

第22号

発行元
鳥取県神道青年会
編集
鳥取県神道青年会
広報部

新会長 あいさつ

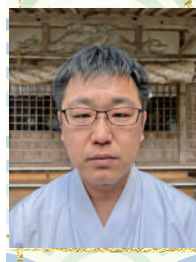
鳥取県神道青年会
会長 前田 伊都岐



先ず以て、謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄をお喜び申し上げますと共に、神宮におかれましては、五月二日に第六十三回神宮式年遷宮の諸祭のうち最初の重儀であります、山口祭・木本祭が恙なく斎行されましたこと御同慶に存じます。

この度、歴史ある鳥取県神道青年会の会長に就任することになりました、中部の前田伊都岐と申します。

この重責を負うにあたり、長い月日悩み検討しました。と申しますのも、もとより浅学非才であり、私より会長にふさわしい会員が多く在籍しているなか



テーマである五十周年の『飛翔』と六十周年の『つなぐ』を精一杯実践することでも少しでも近づこうと考えています。

昨今の神社を取り巻く問題は多岐にわたり更に深刻になっていきます。そして、その何れの問題に対しても特効薬のような解決案は未だ示されておらず、そもそもそのような都合のいい薬はないのでしょうか。

よく聞く問題として「〇〇の存続問題」があります。神社や氏子組織、社家など、その他に「会の存続問題」もあります。全国には、活動休止に瀕している単位会があるそうです。そして、会員が減少してきて

いる本会も他人事ではありませぬ。現在の体制や活動量を維持したまま、七十年や百周年を迎えられ

ると自信を持つて言える会員は少ないでしょう。そこで私が預かりするこの二年間は、戦後激動の時代に大同団結により本会を発足された当時に想いを馳せ、子や孫世代まで安定的に維持し繋ぐために今出来ることを模索し、実践する期としていきたいと考えています。その活動の先に『飛翔』と『つなぐ』があるのではないかと思います。

また、今年は戦後八十年の節目になります。家族や国を守るために戦場に赴かれた方々がおられたからこそ、今日の日本があります。戦火に散った御英霊に

最後になりましたが、先輩諸兄には平素から本会の活動に格別の御高配を賜っておりますこと、誠にありがとうございます。今後とも御指導のほどお願い申し上げますが、就任の御挨拶といたします。

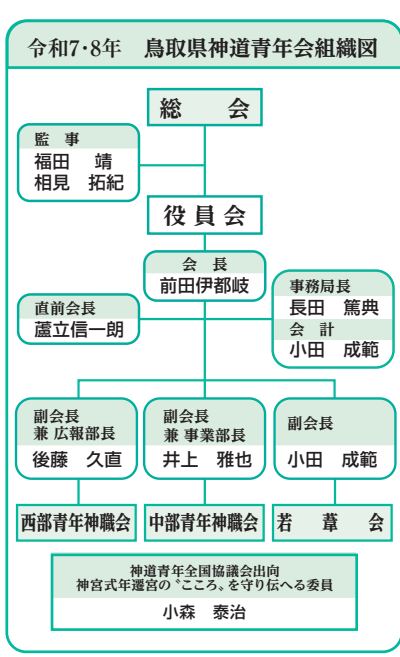
そして、冒頭に触れました式年遷宮について、前回同様『特別神領民』等関わらせていただく機会がありましたら積極的に参加し、本会としても御遷宮の気運を高めていきたいと思います。

感謝を伝え、その想いにも触れていきたいと考えています。

そして、冒頭に触れました式年遷宮について、前回同様『特別神領民』等関わらせていただく機会がありましたら積極的に参加し、本会としても御遷宮の気運を高めていきたいと思います。

最後になりましたが、先輩諸兄には平素から本会の活動に格別の御高配を賜っておりますこと、誠にありがとうございます。今後とも御指導のほどお願い申し上げますが、就任の御挨拶といたします。

そして、冒頭に触れました式年遷宮について、前回同様『特別神領民』等関わらせていただく機会がありましたら積極的に参加し、本会としても御遷宮の気運を高めていきたいと思います。



前会長 あいさつ

蘆立 信一朗



この度、任期満了を以て鳥取県神道青年会会長を退任いたしました。

振り返ればあつという間に時が経った事に驚きを感じますが、創立六十年事業としての大高山頂奉告祭を始め、主管県として開催予定の氏子青年神道青年合同研修会の準備に当たる期でもありました。

顧問様を始めとした管内神社宮司様方のご協賛は元より各実行委員長、各部長、事務局の方々の献身のお蔭を以て事業も恙無く進み、周年事業も残すは周年誌の発行のみとなりました。衷心より厚く御礼申し上げます。花田会長期から恒例と

なった天長節奉祝祭も、本年は東中西それぞれの会員が奏でる三管で厳かに斎行する事が叶いました。福田会長期に始まった仲執り持ちプロジェクトでも、大神山神社奥宮の正遷座祭に際して多数の会員が駆け付け、一旦の集大成を見た様に思います。求心力も指導力も無く、行動指針も示さない会長の下でこれだけの活動ができた事に斯界の未来を感じざるを得ません。

当会の事を熟知し篤い想いを持った前田会長に次期の依頼をした際、職責を全うする事に不安があるかと熟考を重ねた上で度々の辞退を申し出られました。理事を始めとし

た多くの会員方に、心身共に負担を掛けた二年間でしたのでこの言葉に一層適任と思いを強めた次第です。会長職を安請け合いました事もそうですが、神職としての覚悟が定まっていなかった事を改めて痛感し恥じ入るばかりです。

神社を存続させるといふ一大事に対しても、そもそも生活を安定させるという事に追われ、兼業、

多忙を言い訳に置き去りにせざるを得ません。禰宜以下の方は宮司に一任という形で結果協力しないという事もあるでしょう。余裕のない中、悪手だと分かっているにもかかわらず、

最低限の祭典の斎行についても改善の余地に気付きながら例年に倣います。奉務神社にも専念できないのに支部、青年会の諸活動を求められるのは考えられません。経験則で

失礼ながら、多数の会員の胸中は右の通りではないでしょうか。しかし、神社の存続を考えれば、支部や地域、延いては神宮や日本国の在り方を切り離して考える事は難しいと思います。青年会とは我々の先達が、直近の先輩方が、今日まで護ってきたものを共に次へとつないでいく仲間です。

自治体、総代会を始め何処でも人員不足、人材難が危ぶまれる昨今、当会に於いて誰がどの役に就いても運営が可能な体制が不可欠です。会則、会

計、継続事業も都度都度の見直しを行わなければ変わりゆく状況との乖離に後々難渋することが見えています。前田会長の下で失敗を恐れず様々な挑戦とそこで得られる経験を共有し、各々の奉務神社の運営に活かす事ができれば幸いです。卒会しても祭典で、神社廳で、支部で今後も付き合っていく同志、一人一人が支柱である事を自認し、一丸となつての活動を望みます。以上を以て退任の挨拶とさせていただきます。



令和五年度 活動記録

《鳥取県神道青年会》

(令和五年五月)

《役員会》

計十一回開催

(松崎神社、ウエブ開催ほか)

《創立六十周年記念事業》

式典部会

(計一回、西部青年神職会活動として開催)

八月二十七日

●決起集会(十名・母大笑)

九月十四日

●書類発送作業(六名・倭文神社)

十二月九日

●講演会(十名・上井コミュニティセンター)

《その他事業・対外行事・研修等》

五月十四日 ●令和五年度総会(十四名・倉吉シティホテル)

五月二十三日

●中国五県青年神職協議会第一回理事会(五名・八重垣神社(島根県))

六月十日

●第五十六回中国地区氏子青年神道青年会合同研修会(五名・防府天満宮(山口県))

八月二十一日・二十二日

●神道青年全国協議会(以下、神青協)夏期セミナー(二名・神社本庁)

八月二十四日・二十五日

●鳥取県神社廳教化部合同研修会(二名・ブランドールみささ)

九月十日

●岡山県神道青年協議会・鳥取県神道青年会合同懇親会(八名・海鮮居酒屋握りの頂上)

九月二十一日

●臨時総会(十名・松崎神社)

九月二十六日

●神青協国東平安祈願祭(二名・波照間島(沖縄県))

十月二十七日

●神青協「現代社会における神社の役割」を学ぶウエブ研修会(二名・ウエブ開催)

十二月九日

●忘年会(九名・りょう平)

二月十八日

●島根県神道青年協議会竹島領土平安祈願祭(二名・島根県神社庁)

二月二十一日

●鳥取県神社廳神祇奉仕(三名・鳥取県神社廳)

二月二十三日

●祭式研修会・大長節奉祝祭(十三名・鳥取県神社廳)

二月二十七日

●中国五県青年神職協議会第二回理事会(五名・阿智神社(岡山県))

二月二十七日

●中国四国交流会(五名・倉敷アイビースクエア(岡山県))

三月七日・八日

●神青協中央研修会(二名・札幌プリンスホテル国際館ハミール(北海道))

《若狭会》

四月十九日

●鳥取県護國神社例大祭準備・総会・衣紋研修(七名・鳥取県護國神社)

四月二十日

●鳥取県護國神社春季例大祭奉仕(八名・鳥取県護國神社)

八月五日

●因幡相伝祭・衣紋研修(四名・鳥取県護國神社)

九月二十日

●鳥取護國神社例大祭準備・衣紋研修(七名・鳥取護國神社)

九月二十日

●鳥取県護國神社秋季例大祭奉仕(八名・鳥取県護國神社)

二月九日

●新年初会合(十名・酒菜や阿智)

三月二十三日

●若輩会創立六十周年奉告祭(八名・鳥取県護國神社)

三月二十四日

●広島研修旅行(六名・広島東照宮(広島県))

《中部青年神職会》

五月十四日

●令和五年度総会(六名・倭文神社)

五月二十七日

●神楽練習会(八名・倭文神社)

六月十一日

●第一回役員会(五名・ウエブ開催)

六月二十四日

●神楽練習会(八名・倭文神社)

七月十七日

●神楽練習会(四名・倭文神社)

八月十二日

●第二回役員会(六名・ウエブ開催)

八月二十七日

●神楽練習会(五名・上井コミュニティセンター)

十月二十八日

●神楽練習会(五名・倭文神社)

三月十八日

●第三回役員会(六名・ウエブ開催)

三月二十七日

●第四回役員会・神楽練習会・新年会(六名・倭文神社ほか)

二月十日

●建国祭(五名・神崎神社)

三月二十日

●第五回役員会(六名・ウエブ開催)

《西部青年神職会》

五月十八日

●令和五年度総会(十二名・美ささ)

八月十八日

●親睦会(五名・魚ろばた海座)

九月二十四日

●衣紋研修会・第二回役員会(七名・大神山神社)

十月十六日

●第三回役員会(七名・栗嶋神社)

十月十三日

●第四回役員会(七名・大神山神社)

十二月十六日

●忘年会(十名・旬門)

三月十六日

●第五回役員会(六名・大神山神社)

令和六年度 活動記録

《鳥取県神道青年会》

(令和七年四月末迄)

《役員会》

計十回開催
(松崎神社、ウエブ開催ほか)

《創立六十周年記念事業》

実行委員会

(計十二回、主に役員会と併せて開催)

事業部会

(計十二回、中部青年神職会活動として開催)

式典部会

(計五回、西部青年神職会活動として開催)

五月十六日

●記念式典会場下見(三名・ANAクラウンプラザホテル米子)

五月二十六日

●大山山頂奉告祭(十七名・大山山頂)

八月四日

●浦安の舞講習会(七名・上井コミュニティセンター)

九月七日

●記念式典準備作業・神社清掃奉仕(十三名・鎮霊神社)

九月十七日

●記念式典社行会パーベキュー(十一名・鎮霊神社)

十二月二十五日 ●記念式典予行練習(十六名・ANAクラウンプラザホテル米子) ●創立六十周年記念式典(二十三名・ANAクラウンプラザホテル米子) 《第五十八回中国地区氏子青年神道青年合同研修会》 実行委員会 計八回開催(県内各地、ウエブ開催ほか) 十月十日 ●書類発送準備作業(五名・鳥取県護國神社) 《その他事業・対外行事・研修等》 四月十八日 ●監査会(五名・松崎神社) 四月二十三日 ●神青協創立七十五周年記念大会(二名・明治記念館(東京都)) 四月二十四日 ●神青協定例総会(二名・神社本庁) 五月十七日 ●令和六年度総会(十六名・ANAクラウンプラザホテル米子) 五月十八日 ●鳥取県女子神職会結成四十周年記念式典(二名・米子ワシントンホテルプラザ) 五月二十日 ●中国五県青年神職協議会第三回理事会(四名・山口県神社庁) 五月二十八日・二十九日 ●神青協創立七十五周年記念	事業巫女のための神宮研修会(一名・神宮) 六月四日 ●福島県神道青年会創立七十五周年記念式典(一名・郡山市(福島県)) 六月八日 ●第五十七回中国地区氏子青年神道青年合同研修会(十名・松江テルサ(島根県)) 六月十九日・二十日 ●神青協創立七十五周年記念事業北方領土早期復帰祈願祭(二名・納沙布岬(北海道)) 八月二十一日・二十三日 ●神青協夏期セミナー(一名・神社本庁) 八月二十七日・二十八日 ●鳥取県神社廳教化部合同研修会(七名・フアンナールみささ) 九月五日・六日 ●神青協創立七十五周年記念事業竹島領土平安祈願祭(四名・隠岐の島(島根県)) 九月二十五日 ●中国五県青年神職協議会第四回理事会(十名・宇倍神社) 十月七日 ●北海道神道青年協議会創立七十五周年記念式典(一名・札幌市(北海道)) 十月九日 ●青森県神道青年会創立七十七周年記念式典(一名・青森市(青森県)) 十月十三日 ●青年神職仲執り持ちプロジェクト石見神社例祭助勤奉仕(一名・石見神社) ●青年神職仲執り持ちプロジェクト大神山神社奥宮本殿遷座祭助勤奉仕(十五名・大神山神社奥宮) 十月十四日 ●青年神職仲執り持ちプロジェクト大神山神社奥宮本殿遷座奉祝祭助勤奉仕(五名・大神山神社奥宮) 十月二十日 ●全国戦歿学徒を追悼する会主催(全国戦歿学徒追悼祭)(二名・南あわじ市(兵庫県)) 十月十九日 ●神青協臨時総会(三名・神社本庁) 十月二十八日・二十九日 ●神青協「光舞」講習会(一名・國學院大學(東京都)) 二月十六日 ●島根県神道青年協議会竹島領土平安祈願祭並びに時局問題講演会(三名・島根県神社庁) 二月二十日 ●鳥取県神社廳神殿祭奉仕(二名・鳥取県神社廳) 二月二十三日 ●天長節奉祝祭(十一名・鳥取県神社廳) 三月十日 ●中国五県青年神職協議会第五回理事会(四名・速谷神社(広島県)) 三月十八日・十九日 ●神青協神宮研修会(二名・神宮) 四月二十一日 ●神青協定例総会(三名・神社本庁) 四月二十五日 ●監査会(五名・松崎神社) 《若輩会》 四月二十一日 ●鳥取県護國神社例大祭準備・総会・衣紋研修(七名・鳥取県護國神社) 四月二十日 ●鳥取県護國神社春季例大祭奉仕(六名・鳥取県護國神社) 七月十三日 ●三角山神社復旧作業奉仕・役員会・懇親会(六名・三角山神社、居酒屋しまむら) 九月十九日 ●鳥取県護國神社例大祭準備・衣紋研修(八名・鳥取県護國神社) 九月二十日 ●鳥取県護國神社秋季例大祭奉仕(六名・鳥取県護國神社) 十月十日 ●役員会(五名・鳥取県護國神社) 十月二十五日 ●鳥取県護國神社例大祭奉仕慰労会(八名・焼肉すたく) 二月七日 ●新年初会合(六名・酒菜や呵呵) 《中部青年神職会》 四月二十八日 ●令和六年度総会(六名・君想うッバメの暮らし) 二月二十六日 ●神楽練習会・役員会(八名・倭	文神社) ●新年会(十名・蕎麦酒房つなぎや) 二月十日 ●建国祭(七名・上小鴨神社) ●中部支部建国祭奉仕(二名・鎮靈神社) 《西部青年神職会》 六月四日 ●第一回役員会(六名・大神山神社) 六月二十日 ●令和六年度総会(九名・美さご) 八月八日 ●第二回役員会(六名・粟嶋神社) 九月二十六日 ●定例勉強会(九名・粟嶋神社) 十月三十日 ●定例勉強会(五名・大神山神社) 十月二十日 ●定例勉強会(六名・大神山神社) 十月二十七日 ●第三回役員会(七名・大神山神社) 十二月十九日 ●定例勉強会(六名・粟嶋神社) 十二月二十日 ●忘年会(七名・やきとり屋すみれ米子店)
---	--	--

仲執り持ちプロジェクト

当会では、令和四年度より「神社と青年神職 仲執り持ちプロジェクト」に取り組んでいます。「祭典に際して人手が足りない」という県内の神社と、「いろいろな神社で奉仕して研鑽を積みたい」という青年神職をマッチングして、依頼のあった神社へ助勤奉仕として会員を派遣するプロジェクトです。



この度、大神山神社よりご依頼を受け、去る十月十三日（日）、同奥宮（西伯郡大山町大山）の本殿遷座祭並びに末社・下山神社の仮殿遷座祭に当会会員十三名が助勤奉仕をさせていただきました。二社同時遷座ということもあり、多くの神職が必要という中で、当会にお声をかけて頂いた次第です。伯

耆富士とも呼ばれ、国内有数の霊峰として名高い大山の中腹に鎮座する大神山神社奥宮、その遷座祭という大変貴重な機会をいただき、神職として多くの経験値を得ることができました。

兼業の多い鳥取県の青年神職にとつて、自分の所属している地区・分会以外の神社で奉仕をさせていただく機会はそう多くありません。私自身、大山町在住ながら、中部所属の為、



「神社と青年神職 仲執り持ちプロジェクト」

当会では、祭典助勤のための青年神職派遣事業を行っております。若手神職に研鑽の場をご提供頂きますよう、皆様からの申し込みをお待ちしています。

詳しくはホームページをご覧ください、お近くの青年会会員にお声かけ下さい。

人手が足りないから手伝ってほしい！



祭典奉仕を通して研鑽を積みたい！

同神社への奉仕は今回が初めてとなりました。他地域での助勤という緊張感の中で、任された所役を果たし、祭典を滞りなく執り行うことができるようにと集中することで、多くの

ことを学ばせていただきました。

これからも、本プロジェクトが県内の若手神職の研鑽の良い機会となるよう、続けていければと思います。

（亀谷神社 池本圭）



大山を登拝し山頂にて当会創立六十周年記念奉告祭を行いました。準備にあたっては関係各所への了承を得て安全に対しては何度も会議を重ねて検討しました。当日は会員十七名に加えて花田監事の御息が参加。天候に恵まれ山岳ガイドの方とともに行者ルートを登りました。およそ三時間かけて登り、多くの登山客に見守られながら蘆立会長齋主のもとで祭典を斎行しました。その後無事に全員が下山し、大神山神社奥宮を参拝して怪我無く全行程を終えたことに感謝の祈りを捧げました。会員同士の絆が深まり、一人ひとりが山への信仰について思いを巡らす良い機会となりました。

創立六十周年記念奉告祭

令和六年五月二十六日

鳥取県神道青年会創立六十周年記念事業

本周年は主題を「神主はなぜつなぐ」とし、会員一人ひとりがなぜ神主としてつないでいかなければならないかを考える、そのような思いで様々な事業に取り組みました。諸事業に加えて鳥取県神道青年会創立六十周年記念誌の発行も行います。

ホームページも
ご覧ください



▲創立60周年記念行事



▲日本の「八百万の神々」



創立六十周年記念式典並びに記念講演・祝賀会

令和六年十二月八日

ANAクラウンプラザホテル米子にて開催し、式典ではご来賓を代表して鳥取県神社廳廳長の米原尊仁様と神道青年全国協議会会長の大鳥居良人様よりご祝辞を頂戴しました。また歴代会長の三名へ感謝状の贈呈を行いました。記念講演では民俗学者である神崎宣武様にご講演賜り、「つなぐ」をテーマに今後青年神職が何をつないでいくべきなのかをお話いただきました。記念祝賀会ではオープニングとして大山山頂奉告祭の動画を放映した後、清興として大山僧兵太鼓の演奏がありました。蘆立会長の挨拶の後、金田祐季先輩より乾杯のご発声をいただきました。また神青協次期会長の北方宏和様のご挨拶、福田靖直前会長の中締めがありました。無事盛会のまにに終える事ができました。

単位会の活動報告

◆若葦会

六十周年奉告祭 並び周年研修旅行

若葦会は令和五年に創立六十周年を迎え、令和六年三月二十三日に鳥取縣護國神社にて六十周年奉告祭を執り行いました。奉告祭においては祭式や相伝楽など研鑽を積んできた研修の成果を発揮し、また剣の舞を習得した会員による奉納も行われました。

翌二十四日は広島市の広島東照宮を訪問しました。因幡地方及び但馬地方を中心に舞われている麒麟獅子舞が伝わっているとのこと、正式参拝の後、広島東照宮麒麟獅子舞保存会の方々と対談できる機会をいただきました。保存会の皆様の次代へ繋ぐという思いも



強く感じ、因幡地方の神職の将来を担う我々会員も伝統をつないでいくことの意義を再認識する機会となりました。

この度、六十周年を迎えることができたのも様々な方のご指導の賜物であり、先輩諸兄より受け継いできたつながりを更に若い世代の神職に繋いでいけるよう相互協力しながら会員一同で日々精進してまいりたいと思います。

(姫路神社 長田篤典)

◆中部青年神職会

中部青年神職会は、会員は少ないですが、声を掛け

合い協力しながら活動を行っています。

二月には倉吉市の上小鴨神社にて建国祭をご奉仕しました。雪が積もり足下も悪い中ではありましたが、七名の会員が参加し、総代長さんにも参列していただき、盛会となりました。

九月には中部青神主催で県神青会員に声を掛け、倉吉市の鎮霊神社でバーベキューを行い、交流を深めました。

この他に、定期的に神楽練習会として奏楽、舞の練習を行っています。青神会員以外の参加もあり、交流の場にもなっています。練習の成果として、建国祭と四月十四日の鎮霊神社の招魂祭の前夜祭で、舞と奏楽を行わせていただいています。

今後は会員の増加に努め、神楽練習会の継続を行い、新しい事業等も行えるよう頑張っていきたいと思えます。

(上小鴨神社 井上雅也)



◆西部青年神職会

西部青年神職会では、毎月の定例勉強会を開催しました。まずは会員向けに神社奉務に関わる困りごとのアンケートをアンケートフォームにて行い、それぞれが普段抱えている問題やなかなか聞きにくい疑問点などを集めました。こちらのアンケートでは、普段集まりへの参加が難しい会員からも返答をもらうことができました。

アンケート結果は「氏子総代との関わり」「奉務神社の護持運営」という大

きなテーマから、衣紋、奏楽、外祭、紙垂や幣串の奉製などという具体的なもののまで多岐に渡りました。この結果を受けて勉強会を開き、それぞれの経験や参考になりそうな事例などを話し合いました。同じ青年神職とはいっても、各会員の置かれている状況や立場、今までの経験が大きく異なるため、様々な意見が出て有意義な話し合いとなりました。その後の勉強会では、衣紋や地鎮祭、神葬祭を取り上げ、具体的な学びを深め実践に結び付けているところです。

(上津守神社 安達真希子)



令和五、六年度 地区理事報告

神青協地区理事

を終えて

小田 成範



令和五年一月の第一回神青協役員予定者会議に始まり、令和七年五月の中国五

いた青年会や先輩の皆さまのお陰でございます。誠にありがとうございました。

も迅速にご対応いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

二年半にわたり、神青協地区理事並びに中国五県会長を務めさせていただきました。令和五、六年度は神青協の七十五周年にあたるタイムミングであり、周年大会をはじめ、波照間島、納沙布岬、隠岐の島での祈願碑祭典など日本各地で事業が実施されましたが、ほぼ全ての事業に参加することができ、健康に任を終えられたことにまずはほっとしております。ひとえに、出向者への助成をはじめ様々な面でご支援ご協力をいた

地区理事としては、奉務社以外の全ての役員会に出席致しました。役員会の内容は当然各県にも関係してくるものであるため、神青協がいま何を話し合い、今後どうしたいのかをしっかりと自分の中で咀嚼し、五県理事の皆さまへ正しく伝えるよう丁寧に報告を続けて参りました。また、七十五周年に関連して物故者名簿の作成や協賛者名簿の確認など、各県の事務局には例年以上に資料作成と確認をお願いしましたが、いずれ

は、五名の県会長と各県の理事の皆さまに助けられ支えられた二年半でありました。各地の祈願碑祭典や夏期セミナー等にも毎回各県よりご参加をいただき地元開催となる隠岐の島での「竹島領土平安祈願祭」では三十名近い中国地区会員の皆さまに参加していただきました。募集前は、果たしてどのくらい集まってもらえるのか不安でしたが、全体参加者七十五名のうち三十名が中国地区というところで大変嬉しかったですし、

また誇らしく感じました。これも各県の会長や理事の皆さまから会員へ働きかけていただいたお陰であろうと感謝致します。

五県理事会の目的の一つに会員どうしの親睦交流を図ることがありますが、私はこれも大事な目的だと捉えておりました。新型コロナウイルスの五類移行に伴い、今期は従来通り各県持ち回りによる理事会の開催が実現しました。さらに、神青協の祈願碑祭典や七十五周年記念大会など、節目となる行事も重なり、集う機会が度々ありました。そのたびに、懇親の場を必ず設けるよう心がけ、交流を深めてまいりました。五名の県会長の事業参加率の高さもあり、各県どうししっかりと交流できたのではないかと感じております。

さて、令和八年度は中央研修会が中国地区山口県で開催されます。これは山口

神青だけが動くわけではなく、中国地区としてみんなで関わっていくものです。山口神青が主導する部分も多いですが、当日の諸役など他四県も担わなければならぬ部分は山ほどあります。氏青神青もそうですが研修会運営そのものが研修であり、こうした大規模な研修会でないといけないお話は貴重な学びとなります。どうか今後も中国地区と神青協に心を寄せていただきまして、令和七、八年度遷宮委員として出向する小森泰治君へのご支援ご協力も何卒宜しくお願い申し上げます。



神道青年全国協議会


<https://www.shinseikyoku.net/>

新人会員紹介

【若輩会】

氏 名 伊福部崇司
奉務神社 口佐治神社



皇學館大学を卒業し、口佐治神社にてご奉仕しております。まだまだ未熟の身ですが、誠心誠意ご奉仕に努めて参ります。ご指導の程、宜しくお願い申し上げます。

氏 名 旗野真依
奉務神社 宇倍神社



東京出身であり、実家も神社では無い一般家庭の生ま

れですが、ご縁ありまして宇倍神社にてご奉仕させていただいております。國學院大學にて神職資格を取得し、学生時代は雅楽サークルに所属していたこともあり、鳥取に独自の楽が伝わっていることに感銘を受けました。



氏 名 宮永大瑚
奉務神社 潮津神社

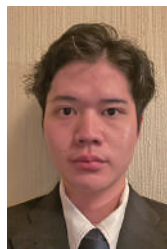


昨年三月まで関西に出ておりまして、この度地元である鳥取に戻り、潮津神社にて奉仕させていただくこと

となりました。まだまだ若輩者でありますので、ゲーテの言「有能な人は、常に学ぶ人である」を心にもちつつ、分からないことを実務の中で学んでいきたいと考えております。そして、氏子崇敬者の皆さまに親しんでいただけるよう、努力していきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

【中部青年神職会】

氏 名 池本 旭
奉務神社 方見神社



熱田神宮学院の二年間の研修生活を経て、故郷、鳥取県の方見神社にて奉仕しております。今後の祭祀事などで多くの先輩神主様と関わる機会が増えてくると思います。不慣れな事が多々あると思いますが日々学び、

神明奉仕に精一杯励んでまいりますのでよろしくお願いいたします。

【西部青年神職会】

氏 名 足賀 司朗
奉務神社 賀茂神社天満宮



米子市加茂町鎮座の賀茂神社天満宮にて権禰宜として御奉仕させて頂いております。暫く岡山の神社にて奉職し、五年程前に米子に戻って参りましたが、丁度コロナウィルスの蔓延し出した頃に当たり、青年会の各種活動等も中止のやむ無きにより、殆ど参加の機会を持てずにおりました。何分にも経験浅く、生来引つ込み思案な未熟者でございます。今後とも確り経験を積み、神職として二層のレベルアップを図って行ければと思つてお

ります。何卒御指導御鞭撻の程宜しく御願い申し上げます。

氏 名 大樂 貴志
奉務神社 深浦神社



米子市に鎮座致します深浦神社にて禰宜として奉仕しております。

数年前に神職資格を習得したばかりですので、まだ神社界や神職について右も左も分からない状態ではありますが、諸先輩方や氏子の皆様からご指導やご鞭撻を頂きつつ、神職として成長していきたいと思います。宜しく御願い致します。



先輩からのメッセージ



【若輩会】

鳥取神青退会挨拶

金田 祐季

鳥取県神道青年会四十五周年記念事業にて、若輩会では「二十年後の神社と神職」というテーマにて、それぞれの思いをぶつけた議論の内容をそっくりそのまま、活動報告として発表しました。その中で、今なお強烈に焼き付いているのが、「二十年後の暗い未来」を議論したこと。我々にとって最悪の未来とは。氏神信仰が失われ、社家が断絶し、神宮式年遷宮への奉賛は皆無、そして国柄は喪失していく。あれから十数年、残念ながら氏神信仰・社家存続は、あの日想像した暗い未来へと進行中だ。私は、暗い未来への防波

堤にはなれず、ましてや、青年から中年へと変わった今、二十年先など想像できない。目先ばかりに気を取られ、さらに年を重ねれば、きつと地位や名誉、自らの保身に明け暮れるようになるのだらうと、自身の最悪の未来がみえてきた。なので青年会引退です。時代を作るのは中年ではありません。若者です。鳥取県神道青年会が未来永劫発展していくことを切に願っています。



卒会にあたって

岸本 航

例えば、私が鳥取県神道青年会の会員になったきつ

かけは、西部で開催された中央研修会でした。二十歳の時に京都國學院を卒業して若輩会員になり、若輩の先輩方に誘われて、中央研修会開催の実行委員会に参加したのが始まりでした。

当時の先輩方はとても大人に見えて、今、自分が卒会と思うと信じられません。しかし、青年会に関わらせていただいた二十数年は、鳥取県、中国地方のお宮、神職の縦と横のつながりと、青年会に入っていないければ経験できないことができました。

現会員の皆も、色々な経験をして歳を重ねた時に、過去の出来事で盛り上げられるように、良くも悪くも思い出をたくさん作ってください。

昨年、久しぶりに六十周年式典、懇親会に参加して、改めて鳥取県神道青年会の良さを感じることができました。また一つ思い出

ができました。ありがとうございました。



【中部青年神職会】

卒会を迎えて

渡邊 香里

私が神青に参加したのは先輩方が「中央研修会を鳥取に招致しよう」と精力的に活動をされておられた時分、委員会では譲れないこだわりがあるが故の白熱した議論が続き、毎回午前様でした。その情熱に圧倒され、分からないながらも何かしようと必死で走り回っていたのを覚えています。

それから二十余年。私も事業の委員を幾度となく経験し、卒会を迎えました。今しみじみと神青の活動は神職として、また宮司として一人前になる為の練習をする場所だったのだと感じています。

事業の運営は面倒で大変な事ばかりですが、神青だからこそ「失敗」を許されるという強みがあります。是非会員皆さんには神青活動中に沢山失敗をして沢山怒られて、それを成長の糧として頂きたいと思います。応援しているので頑張ってください。



顧問御芳名

門脇 紀文様
 會見 玲郎様
 吉田 武章様
 米原 尊仁様
 佐々木 克秀様
 松田 直也様
 青砥 一彦様
 霧林 敦様
 木山 典明様
 須山 倫史様
 池本 靖様
 大澤 祥之様
 今岡 靖史様
 田中 正臣様
 来海 紀彦様
 中嶋 俊史様

顧問の皆様には、御協賛をはじめ、当会の諸活動へたくさんのお助言を賜りました。この場をお借りして感謝申し上げます。

鎮物の頒布

鳥取県神道青年会の事業として鎮物の頒布を行っております。



頒布価格 一体 五〇〇円也

急な地鎮祭が入り早急に鎮物が必要な時や、沢山のロットでの注文しかできない事に悩まれている方は是非当会に御用命下さい。

鳥取県神道青年会

お知らせ 会員向け情報 (会員ページへ)

鳥取県神道青年会のホームページをご覧ください!

活動報告を随時更新しています。通信のバックナンバーも閲覧できますので、是非ご覧ください。

鳥取県神道青年会 HP

<https://www.tottori-shinsei.org/>

担当連絡先

東部 ● 河上統一 (白兔神社)
 0857-159-00047
 中部 ● 福田靖 (照國神社)
 0858-152-3015
 西部 ● 門脇聖文 (日御碕神社)
 0859-145-0128

各地域に在庫を確保した担当を配置し、一体からの注文も受け付けております。
 併せて大量発注もお受けいたします。
 ※五十体以上注文される際には二週間前に確認いただきますようお願い致します。

編集後記

今期は、長らく続いたコロナ禍の終息を受け、我ら青年神職にとっても、本格的な活動再開の節目となった。中でも、創立六十周年記念事業をはじめとする様々な取り組みが、多くのご協力と尽力のもとに実現された。それぞれの事業には、「神職はなぜつなぐのか」という問いに対する、我らなりの答えを見出すとする熱い思いが込められていた。

編集にあたり、改めて「不易と流行」という言葉の重みを実感した。神職としての変わらぬ使命や思いを継承することは、まさに不易であり、決して揺らぐことのない礎である。一方、現代という時代にふさわしい形で活動を展開する柔軟さは、流行の本義である。そして、その流行が時宜にかなうものであるかを見極めるには、これまでの歩みや過去の取り組みを正しく知ることが欠かせない。

「鳥取神青通信」という形で活動の記録を残すことは、単なる事実の報告にとどまらず、その背後にある思いや、関わった者たちの志を次代へとつなげる試みである。この通信が、過去と現在の思いをつなぎ、未来の青年神職が志を深めつつ新たな時代を歩むための礎となることを願うものである。(亀谷神社 池本圭一)